

第四章 笑って過ごす「本当の老後」の作り方 ＝カッコイイ後期高齢者を目指せ＝

●介護が必要になっても元気な高齢者、どんな高齢者が理想？

今の時代、65歳で高齢者だと思っているご本人はほとんどいないでしょう。むしろ、日本で一番元気な世代かもしれません。

本当の老後になったら—— 介護が必要になったとしても、そのとき、どんな高齢者になりたいですか？ やっぱり、カッコイイ高齢者がいいですよね。

じゃあ何がカッコイイですか？

体力も美貌も年とともに衰える、これは避けられません。四苦八苦のうちの四苦は、「生老病死」です。どれも避けられないと仏教は教えていました。（多少、あらがう事はできます、たぶん）

しかし、格好良くてできる。でも具体的に何が格好良いかについては、人によって違うでしょう。

私の理想で言えば、何にでも感動（綺麗や美味しい）できて、逆に、醜い感情（怒りや落ち込み）をきちんと制御できて、いろいろな事を知っている人。すでに友人知人で何人か見つけています。こんな人とは一生付き合いたいなと思っています。逆の人は、徐々に切り捨てに入っています。

ことわざにこんなものがあります。

『益者三友、損者三友』（良い友達・悪い友達それぞれ3種類）

益者=正直な人、誠実な人、物知りな人

損者=口先だけ、心が正しくない、うわべだけの誠実さなし

『その人を知りたければ、その人の友を見よ』なんていうことわざもありましたね。

食って寝るだけの人生なんて意味がないし、それに自分の趣味などの好きな事を付け加えてもそれだけではもったいない、もっと充実した老後にしたい。

2章の金トレ7で、旅行が3倍美味しくできるという事を書きましたが、「計画→道中の出来事→誰かに『こんなだったよ』と伝えて行程が完了」。最後に分かち合う人が必要です。さきほどの心理学的に言うと、“他者からの承認”、つまり、認められるということです。これがないと不完全燃焼になってしまいます。

例えば、旬の物を旬に食べる。たったこれだけの事をとっても、何が旬でどんな料理があるか、それは自分で作れるのか買ってくるのか食べに行かないとダメなのか、どこで取れるのか、どんな風に取れるのか、他のものとはどう違うのか、などなど、たった一つの事をとっても、それを幅広く知っていると感動する度合いも変わってきます。そしてその知識も一つの教養です。しかも、それを実際に食べて「あー美味しい、やっぱり違う」と言うためには、違いが分からなければいけません。

—— だけどこういうことが出来ない人も結構います。食べただけ、おざなりな美味しかったよ、で終わり。あるいは、有名処の名前やマークで、判断する人も少なくありません、しかし、これではモッタタイナイ。

人それぞれに理想とするカッコイイ高齢者があると思います。例えば、若い人や部下に慕われているとか、何かのクラブやサークルに入るとか取り仕切るとか、地域活動で活躍したいとか、得意な方面で恩返ししたいとか、地域の人とつながりを持ちたいとか、いろいろあると思います。

自分の理想の高齢者を見つけて探して、そして目指して下さい。そうすればその過程がすべて、カッコイイ高齢者になります。

感動の幅を広げて、そのための教養を広げ続けていれば、そんな友が増えていきます。だから、それに向けてお金を使う。だから私は、周りから認められる能够性を高めよう、お客様のライフプランを作っています。

心配性の人でもそうではない人でも、どうしても、新しい事には不安の方が先回りしてしまいます。不安と期待は表裏一体。ライフプランで「安心しました」だけではなく、「これから期待・展望」も描けたら良いなといつも思っているのです。

● 「買い物難民」「介護難民」「年金不安」が最大の難所

「ローンはとっくに終わっているし、介護生活もなんとか成り立ちそう」

このような状態でもひょっとすると将来老後破綻の別の要因が出てくるかもしれません。少子高齢化が引き起こす諸問題です。たとえば、年金破綻。年金の制度自体がなくなればどうしようもないですよね。でも多くの皆さん、「ひょっとすると年金はこれから一」と思っていたりしませんか？

もちろん、政府の成長戦略が成功して、東京五輪も無事開催されて、いろいろな産業が発展して輝かしい日本がやって来る可能性も十分にあります。再生医療産業やロボット産業、それに再生エネルギー産業・外国人観光客ももっと増えて観光産業がもっと元気になることも十分考えられます。日本の農作物がブランド化され、海外で人気を呼ぶかもしれません。

私も順調な経済成長を望んでいるのですが、楽観もできません。そういう中で高齢化はますます進みます。少子化対策はかけ声は大きくてなかなか効果を現してくれていません。それにもし、今すぐ出生率が大きく向上してもその赤ん坊が大きくなるのには20年掛かります。だから、人口は減少して、高齢化率はまだまだ上昇します。その時起こる問題は、具体的にはどんなものでしょうか？

私が特に気に入っているのは、「買い物難民」「介護難民」「年金破綻」の3つです。

歯抜けになった街で、手押し車で何とか移動できる高齢者がどうやって買い物するか？さらに介護を受けるようになった時に、どう介護を受けられるか？

どれも個人のライフプランでは対処に限度があります。しかも現状、介護費用の増大から、国や自治体の介護プランは、施設介護より自宅介護を重視しています。歯抜けになった地方でどうやって生活するか・介護を受けるか？とても難問です。

そして、最大の不安が、日本の高齢者制度の最大の基幹制度である「年金」制度が破綻しないかどうか？今よりもっと年金の支給年齢が遅くなるのじゃないか？ということ。

私の個人的意見ですが、今のままなら、2030年代に積立金枯渇の問題に直面するのではないかと思っています。もし具体的に「今のままなら10年少しで年金が払えなくなります」と政府が宣言したらどうなるでしょうか？少し前にギリシャがこう

いう事態になりました。

こういう場合に、過去、日本航空が破綻した時やGMやデトロイト市が破綻した時が参考になります。

「年金制度止めましょうか？ それとも 2～3割減で存続させますか？」

こう聞かれたら、みんな2～3割減で納得します。逆に、これを言わざるを得なくなるのが2030年代ではないかと思っています。あるいは、これより前に、年金支給をさらに遅らせることが議論されるかもしれません。

財政破綻のときに起こる数々の問題のうち、老後生活で最も重要なのが、「買い物難民」「介護難民」「年金不安」になると思っています。各個人にしわ寄せが来るわけです（すでに一部はやって来ていますね——）。

●フローを見てれば、貯金ゼロでも悠々自適はチョー余裕

「失われた20年」とやらで、最近の若者は、平均値で見ると昔ほどお金持ちではありません。では彼ら彼女らが不幸かと言われると意外とそうではない部分もあります。

一人暮らしのワーキングプア、いつもなんとかぎりぎりやっています。しかも結構苦にならないどころか、お小遣いが出来た時には好きなアイドルやアニメに没頭したりして結構満足しています。むしろ、職=収入を失う事が恐怖。でも、彼らはそれに対処すべく、人手不足の分野、すなわち、介護職やファストフードのバイト職を選ぶことで、いつでも転職OKなリスクヘッジをしています。これも見方を変えれば一つの安定志向でしょう。結構、自分の好きなことをやって、不幸だとは思っていない人も大勢いるように思います。

大手だからと安心していたけど会社破綻した人と、いつでも転職できて心配ないという人、どちらが安定かと言えば今では即答できない部分があります。

別の見方をしましょう。アナタより収入の大きい人はたぶんいくらでもいると思います。でもほとんどの人は、だからといって不幸だとは思っていない！ はずです。

年金生活になると、2ヶ月に一度、きちんと年金が振り込まれます。決して多くはないかもしれません、振り込まれます。だから、生きていく上で最低限の生活費があれば、とりあえず心配はゼロ。おそらく今のワーキングプアの人の中には、月10万円あれば、家賃も払って光熱費も払って、あとは余裕で暮らせる、と思う人も多いと思います。

そう、問題は、固定費です。家賃に光熱費、そして最低限の食費。これを予算内に納められるかどうかです。ここで予算オーバーなら絶対に貯金の取り崩しが始まって、それが尽きることが生命線になります。基本生活費ラインですね。

老後家計が圧迫する多くの理由は、

- ・交際費などが無くせない・自動車が手放せない、
- ・そして、子どもに援助しなければならない、

こういう費用が生活圧迫の原因になることが多いと思います。

田舎だからどうしても自動車費用・交通費がかかる。大きな家だから光熱費がかかる。これらは引っ越してしまえば簡単に解決します。でも高齢になってから引越なんて無理！ こういう人がほとんど。しかしこれらは、生きるか死ぬかの選択、つまり、生活保護レベルまで考えるならば、いくらでもやりようがあります。だから半分は本人の我が儘です。

必要なのは、“覚悟”で、その覚悟のために、これまで何度も書いてきた“優先順位”が必要になってくるはずです。「家計決算書」が役立つはずです。

自分の暮らしに絶対なくせない“とっておきの宝物”があれば他は必要ない！ こんな覚悟が可能になります。

繰り返しますが、年金生活になると、2ヶ月に一度、きちんと年金が振り込まれます。これが赤字でなければ、チョ一余裕。でも赤字の人、それがずっと続く人は、早めに決断してください。そうしないと本当に老後破綻してしまいます。

禁句は、「何をいまさら」「なんとかなるだろう」です。

逆に、赤字でない人、あるいは、貯金がもつ人。こちらはチョ一余裕。なのに、「あれも節約、これも節約」で、時には夫婦喧嘩。この喧嘩の原因是、我が儘だから、と

肝に銘じていただければ幸いです。まあ、我が儘でも良いんです。ただ、それは無駄な夫婦喧嘩ですよ、とわかって頂ければそれで十分であります。

●美味しい！きれい！、豊かな人は感受性が豊かである

お金があるけど、心が醜い人、アナタの近くにいませんか？

お客様の中にも、「金払うんだから良い事教えろよ」的な人が中にはいます。最初の面談で「あー、この人とは私は相性が悪いな」と思ったら、「ゴメンナサイ、私の力ではありませんお役に立てそうにありません」と、お引き取り願っています。

「アナタのこれから的人生、とりあえず、オレに任せてください。変えて見せますから」が心から出来そうにない人、最初の面談につまずいた人は、双方にとって、つまり、任せる方も任される方も不幸にしかなりません。

何度も書いていますが、「お金があるから、幸せ」ではありません。それを価値あるモノにしてこそ豊かになります。そもそも豊かになろうと思うと、「感受性」を高める必要があります。

———— お金があって、旨いもの喰って、旅行して、好きな車に乗れて
好きなファッショング也能くても、「旨い」「綺麗」「楽しい」「嬉しい」と
感動出来なきや意味が無い！————

例えば、旅先で、日常とは違う風景に感動する。これ、日常と比較して違うから感動するのです。料理でも同じ、「いつもとは違う食感だから、味だから、香りだから、盛りつけだから」感動できます。昔、コマーシャルで言っていた、違いの分かる男、ってやつですね。

でも意外と、旅行に来たから美味しい、お金払ったから美味しい、こういう人も大勢います。淋しいです。しかも、そういう感覚は鈍いのに、別の部分で「お金払ったのに」と感情だけで怒る人も世の中には大勢います。もっと淋しいです。

感受性を高めながら、かつ、感情を抑えるなんて、立派な大人しかできないことです、かなり難しい事です、私も将来、頭の働きが鈍くなったら、自分で出来るかどうか自身がありません。でもそんなことは脇に置いて、お客様には平然と

「感動することが若さの秘訣、豊かな生活に必要な事。でも、悪い感情はいつも抑えるようにしてください。そうすれば、カッコイイ悠々自適な生活になりますよ」、と言っています。

▲金トレ 12 ▼ 老後破綻がなぜ起こる？ 誤算・盲点を無くせ！

●やっぱり借金！ 定年時 2000万円のローン残債は結構キツイ

なぜ老後破綻するのですか？ という質問があります。

この質問は一時期そういう題名の本が流行ったからでしょうか。この言葉には、普通のサラリーマンなら退職金も年金もあって、普通に考えれば破綻なんかするはずないでしょ、という意味が隠れていると思っています。

でも確かに、普通のサラリーマンの破綻、増えています。すばり、定年ローン破綻！ です。

『地価の高かった頃、平成5年くらいの家購入。当時、年齢35歳。
頭金が少なかったので、返済完了は70歳。

・・・

あれから23年。平成28年。年齢は58歳。あと2年で定年だ！

しかし残債が2000万円—— 予想外の退職金減額、それに、転籍出向があったのだ。

せめて、あの時病気していなかったなら、低利ローンに借り換えられたのに。』

こういう人ですね。定年で収入が減ったとたんに返済できずローン破綻。

もちろん、昔からある、誰かの保証人になってその借金というパターンも現在も生

き残っています。昔なら、知人の事業の借金が多かったと思うのですが、今は親から借金を引き継ぐパターン。そして、最近増えているのが離婚パターンです。

『夫の住宅ローンの連帯保証人になっていた。けれども離婚した。元夫が返済不能で妻に回ってきた。』

どちらも、なんとかローン破綻を避けられたとしても、その後の老後資金が足りない！ なんていうことになります。だから定年以後も残るローンは早めに繰上返済です。

●その昔、医療費はタダだった

介護保険は2000年（平成12年）に始まりました。これより前の介護が必要な老人はどうしていたか覚えていますか？ 家族が面倒を見るか、ヘルパー（当時は家政婦の呼び名の方が多かった）を個人で雇うか、病院に入院させてもらうか、でありました。

そう、社会的入院と言って、病院に1年2年3年と長い間、“住む事ができた”のです。しかも、昔、老人医療はタダでした。

歴史を見るとこうなります。

（昭和48年）1973年 老人医療無料化実施

（この時すでに一部の自治体では無料化）

以後、負担が徐々に増えていきます。

（昭和58年）1983年～ 定額負担 外来400円／月 入院300円／日

（昭和61年）1986年	800円	400円
--------------	------	------

（平成4年）1992年	900円	600円
-------------	------	------

（平成7年）1995年	1010円	700円
-------------	-------	------

（平成8年）1996年	1020円	710円
-------------	-------	------

（平成9年）1997年	500円／日	1000円
-------------	--------	-------

・

・

・

（※ただし、どの場合でも、高額療養費制度のような月額上限額あり）

医療費がタダで、病院で寝たきりなら、年金が余った時代も、ついこの前までありましたのです。私の祖母も2年弱病院にいました。

高齢化で医療費・介護費が増加している、こんなことは私が書くまでもありません、皆さんご存じです。そして今後ますます負担が増える予定。

ただ現在でも、年金が余る人はいます。私の相談でも「母は年金から貯金しているみたいです」と言われる事はよくあります。これは、この本の冒頭で、独身OLのお小遣いは住環境で決ると書いた事と共通点があります。一人暮らしなのか、介護施設なのか、2世帯・3世帯居住なのか、いろいろな住環境があるので一概には言えません。

それでも、この「病院に住めた時代」、今考えると凄いことだと思いませんか？

●老後の不安、公的医療と公的介護の基礎知識

数ある老後不安の中でも最大のものは健康関係です。

テレビや雑誌を見ると、アンチエイシングやサプリメントの広告を頻繁に見かけます。それだけ需要が多いということですね。

私のお客様では、「老後の健康保険料はいくらですか」という質問をよく受けます。年金の中から、健康保険や介護保険、それに所得税・住民税を払わないといけませんからね。健康保険と介護保険と税金（所得税と住民税）、これらだいたい合わせて、15%くらい引かれる事になります。

もしどこか体が悪くなって病院に行くと、自己負担というものがあります。1割負担とか2割負担（70～75歳）とか3割負担（現役並み所得者）とか。

まず、健康保険の基礎知識です。病院にかかった時に、1割負担や～3割負担などで済ませるために、どこかの健康保険に入らなければなりません。自営業の方は国民健康保険ですが、サラリーマンなら会社の健康保険、公務員なら共済組合ですね。定年退職すると、「任意継続」という2年間だけそのまま入り続けられる制度を使う方が多いです。共働きなら、奥さんの扶養に入ると言う場合もありますが、これは一定の所得以下の場合のみ。

任意継続は2年間限定ですから、それ以降は国民健康保険に入る方がほとんどです。

次に介護保険。これたまに使い方をご存じない方がいます。健康保険は、病院に行って受付に保険証を提出する時が通常最初のステップですが、介護保険は違います。まず、介護認定というものを受けなければはじまりません。各自治体の「地域包括センター」というところでこの手続きをすることが最初のステップになります。

意外とこのステップを踏まない（知らない）ために、介護保険を使えていない人が結構います。というのは、例えば、

足を骨折した。 → うまく歩けなくなった → 介護認定を受ければ若干なりともサービスが受けられる（例えば、階段の手すり増設工事が格安でできる）

こういう介護保険のことを知らないがために、上手く介護保険を使えていない人が、少なからずいます。本当は、自治会なり、民生委員なり、各地域で支え合えれば情報が上手く流れるのでしょうか、そういうことが日本中で出来ているわけではありませんので、介護など日常生活に困ったらダメ元でも良いくらいの気持ちで、行政に相談に行きましょう。

自治体それぞれ独自のサービスがあったり、国の制度があったりしますが、そのような情報は注意深く見ていないと知らないままになっていることが多いと思います。例えば、例えば寝たきり老人世帯にオムツ支給、をしている自治体は結構増えています。医師の認定があれば、オムツ代を医療費控除にいれて税金を安くすることも出来ます。他には、医療費が現役並負担の3割負担でも申請すれば1割負担になるのにしていない世帯も結構あると多いと思います。

ひょっとしたらアナタも昔、確定申告などで、「あれっ！ これ前からしていたら随分得したのに」などと思ったことがある人も多いかもしれません。日本の制度ってのは、自分から動かないと損することが多いのです。

だから、市民新聞とか自治体発行のチラシは良く読みましょう、そして、困ったらダメ元でも相談に行く。「あれ、アナタ知らなかったの？」がないようにしましょう。

●リフォーム・墓・介護、予定外の費用を予定内に変えてみる

健康面以外でも、普通の生活をしていて、定年後に起こるお金に関するもう一つの大問題があります。予想外の支出！です、でもこれがフツーの一般人はもの凄く大きな大問題。でもライフプラン専門の私からみると「予想外じゃないんだけどな」というものも多いです。

ですから、お客様には最初にこんな質問をします。

・古い家に住んでいる人だと、

「20年後もそこにお住まいですか？どうされます？リフォームは？」

・家族（子供）の多い方だと

「お子さんの結婚費用は？」とか

「お孫さん4人？入学祝いとかどんな風に？」とか

「2世帯住宅とかどう考えておられます？」とか

「介護が必要になったら、（←これは本人もだし、大抵はその親も）

「今の家で大丈夫？それとも住み替え？」

・もちろん普通の生活を見るだけでも

「自動車は10年くらいで買い替えですよね？」

「電気製品20年もったら良い方でしょう。冷蔵庫にクーラー――」

「ところでボーナス無くなって、固定資産税はどこから？

（毎年20万円×20年でも400万円が必要）」

上の質問の後に、「じゃあ、今のストック（貯金）は、この金融商品で・・・」、なんていう話をするのですが、FPの教科書では、

・物価上昇がこれくらいで、

・貯金の利回りがこれくらいで、

・こんなライフイベントがあるから、こんな感じのグラフ

という話で終わってます。（←いやいやこれが基本なんですけど、はい）

予想外の支出は、予定内に出来ますっ！

その上で、

「今の趣味とか楽しみを続ける予算を考えましょうか？」とか

「新しい楽しみの予算をつくりましょう」とか

——これがなければ、ライフプランを作る意味がありません！

どんな老後を送りたいか？　これを真剣に考えれば、老後破綻は起こりません。それどころか、自分らしい悠々自適生活を送れます。

どれだけ自分にプラスアルファ出来るか？　これがライフプラン作りです。お客様との共同作業です。

▲金トレ 13 ▼

いつか貴方も「おひとり様」、優先順位の判断法
カッコイイおひとり様は何が違う？

●老後2度目の危機！　遺族年金で、収入が3分の2に

『いつか配偶者が亡くなる、同時に一緒になくなることはまずない！』

当然のことなのですが、定年直後のまだまだ若いご夫婦に、「ご主人が亡くなったら」なんてなかなか言えません。

普通、60歳で定年を迎えると、65歳までを部分年金だけで過ごすか、再雇用や再就職で過ごすかはその人次第ですが、どちらにせよ、65歳からが本当の年金生活。

で、私がライフプランを作ったときにいつも思うことは、その後のことです。

ご主人さんや奥さんが亡くなったときです。当然ですが世帯収入が減ります。大体、ご主人さんが亡くなった時の方が、影響が大きくなります。

厚生老齢年金（夫）300万円 → 厚生遺族年金（妻）200万円

共働きで、ご主人が亡くなると、

厚生老齢年金（夫）	300万円	→	なし
”	（妻）200万円	→	200万円

世帯収入で言えば、前者は300万円 → 200万円 = 収入2／3に
後者は500万円 → 200万円 = 収入半分以下に

夫婦生活が一人の生活になって、確かに、食費は減るでしょう。光熱費も半分とはいかないでしょうがそれなりに減らす事は可能でしょう。

実は盲点が固定資産税！

都会と田舎では土地価格そのものが大きく違うので一概には言えませんが、固定資産税額を年間30万とすると10年間では300万になります。20年間では600万円。

年金から30万の固定資産税を払うのは結構厳しい。だって切りつめられない費用ですから。そして、地価があがれば税額も増えます。

健康保険や所得税は収入に応じた計算式ですが、固定資産税は個人の収入には全く関係ありません。これが老後資金準備の盲点となるのです。

（地方に行くと、固定資産税は同じ広さの一軒家でも、この半額とかさらに半額の年間7万円とかになります。）

私がライフプランを作る時に、固定資産税を必ずお聞きします。都会で年間30万円の税金ならば、遺族年金が200万円なら、収入の15%に相当します。これに、所得税や健保介保を引くと、残り150万円。

保険料以外にも医療・保険など健康関係の支出が必ず増えてくるのが老後です。どうやって、固定資産税を確保しようかなあ、この分は、安全に運用（貯金）しておこうなあ、と考えるのです。

ご主人の年金があったから払っていた固定資産税、それが旦那さんが亡くなつて、世帯の年金は減っているのに、追い打ちをかけるように、固定資産税の支払い通知書がきてそのとき初めて額を知って、「あーこりゃ大変」と嘆く家庭が結構あるのです。でもこれ、予想外なのではありません。予定内にできるお金です。

● 「アウトソーシング」と「お互い様」で淋しい老後を解決する

「家も建ててやったのに、車も買ってやったのに」、でも、嫁や婿が気に入らないから、子供達と疎遠。「めったに会わない、近くに住んでいるのに」

こんな話を聞きます、それも一つや二つじゃありません。3世帯住宅だけど、(共働きとかで)いつも誰もいないから、結局、私一人だ、と嘆いている人もいます。

今、手元に、ヘルパーのちらしがあります。

1回2時間 5400円

ひと月で、毎週1回なら 5400円×4回で21600円。

つまり、月2万円少し！

食事作り、掃除に買い物代行、病院の付添い、食事の介助、車椅子介助、ゴミ出し

「〇〇してやったのに～」と思うのなら、こういう形にお金を使うのも悪くありません。毎週2時間・年間では30万円弱。10年間で約300万円。車や家に300万円やったお金相当です。

例えば、

「毎週、土曜日は、この人に料理作ってもらうの♪ 私の休養日、毎日、弁当ってのも嫌だしね～」

「2時間だから、手の届かないところの掃除もしてもらえるし、冬物夏物の入れ替えも手伝ってもらえるし、時間がある時は、お茶を飲んで世間話」

単純にこんなお金で割り切る方法もあるんじゃないのかな、と思います。もちろん、お金払っているのにイマイチという不満が残る場合もあるでしょう。ここはある程度、どっちをとるか、割り切りが必要な部分です。

ライフプランの面白さがここにあります。お金というのはいつも、するかしないか選択の連続だからです。

普通、年金生活にはいると収入はほとんど変わりません。そこから2万円出すのは非常に辛いです、（これ絶対無理です）。でも、最初からこれを予定しておくと、例えば、その分、毎月貯金しておく、貯金を作つておく、家なんか買ってやらない、自動車といつても軽自動車の分だけ。これら、ひとつのライフプランなのですね。

もし、子供などにあげた後であったとしても、今、月2万円の出費で毎週誰かに来てもらうことになったら——もしこれで、その人の日常生活が豊かになるのなら、それはそれでアリだと思います。

老後淋しい、喋る相手がない。配偶者が亡くなればなおさらです。

2世帯住宅・3世帯住宅だけど、子どもたちはいつもいない。孫ももう大きくなつて昼間は誰もいない、こんなことはよくあります。

老後に誰かと喋ろうと思ったら力ネがかかる！　くらいに思つておいた方がいいでしょう。もっと極論すれば、こちらが力ネを出さなきゃ喋る事すら出来ない・時間をつぶす事さえ出来ない、くらいに思つておいた方が良いかもしれません。

単純に、アウトソーシング（外部委託）するならお金が掛かります。この時大事なのは近所付き合いで、こちらは「お互い様」の心が重要です。しかし最近では、まとまな近所付き合いはおろか、けんか腰の付き合いまであります。こうなると、もっと淋しい老後になります。

これから日本は超高齢化時代になりますから、そこら中で同じような境遇の人が今以上に増えています。だから「お互い様」だと思っていれば、上手くお付き合いできるはずです。（なのに、真っ向反対路線を突っ走る老人が増えているのはナゼだろう？不思議です。）

●上品な老人がカッコイイ！　気持ちの“昇華作用”は効果絶大

老いると体の機能低下は避けられません。昔はあれも自分で出来た、こんなことも出来た、でも今はあれも出来ない、これも出来なくなった、と嘆くことが増えてきます。これはどうしようもないことで、そんな中でも、誰もが元気に生きていたい！　と思うのは当然ですね。みんなの思いです。

「昇華」という心理学の言葉があります。

暴力的な破壊エネルギーを別のスポーツ活動にぶつけるとか、やってはいけないエネルギーを芸術に向かわせるとか、他のより高度で社会に認められる目標に向かって自己実現しようとすることです。

老いによる機能低下は、昇華作用で言うところの社会で認められない行動ではありませんが、心の葛藤・悔しさという点では共通点があります。

スポーツ選手には、ケガで選手生命を絶たれたけれど別のアプローチで、自己実現する人が大勢います。オリンピック選手が別の種目のパラリンピックの種目に出たり、選手は無理なので学術の方に進んだり。

子どもでもそう、「あいつ勉強ダメだけど、サッカーだと熱くなるんだよね」とか。でも、子どももある程度の年齢になると自分の実力が分かってきます。でも選手として上を目指せないからといって、熱が冷めるわけでもなく、別の選手以外の道を探したり、観戦だけを楽しんだり、自分のできる範囲で、サッカーを生き甲斐にして成長していく人も大勢います。

道はひとつじゃないし、さらに、老後なんてもう人生の半分超えちゃっているわけですから、あとは自分の知識と経験から、別の昇華する道を探してみる。これは機能低下を感じ始めた以降、笑う老後のためにはもの凄く大事な視点です。

「若い時はできた、昔はできた」これを思い返すことも大事です、しかし、それを思い返して今を嘆くようでは逆効果。過去自慢のいけ好かない爺さん・婆さんになってしまいます。そうではなく、むしろ、今だったらどうするか？ 今自分に出来る事は何か？ どこまでが出来てどこまでが出来ないか？ これらを考えられてこそ本当の大人です、カッコイイ大人です。

上品な老人というのはこういう事が身に付いている人、だと思っています。

病気やケガで、今までとは違う生活になった、この時にこの気持ちがあるかどうかでその人のその後が決まると思っています。

● 「頼られる・認められる」という幸せに、カネを使っておこう

お客さんの中には、

「今まで、一生懸命、働きづめに働いて、贅沢せずに貯金してきました。」、と言われる方が結構います。こういう方には、むしろ、これからもっと上手くお金を使って貰いたいな、と思います。折角手にした【可能性】を上手く使って貰いたい。

マズローという心理学者は、人間の欲求を段階的に考察しました。人間には以下のような欲求があるそうです。ということは、それぞれの欲求=カネを使う、ということにも段階があるということあります。

- (1) 生理的な欲求（食欲など）
- (2) 安全の欲求（安全な住居など）
- (3) 所属・愛の欲求（組織に属していたり、誰かに必要とされたい）
- (4) 承認の欲求（他人から、認められたい・凄いと言われたい）
- (5) 自己実現の欲求（自分自身を高め、より普遍的な自己を確立）

上の、(1)(2) の欲求は分かりますよね。これにお金を使うのは基本ルールです。でも、その後、(3) にお金、よく、定年退職前後に、同期会を作ったり、サークルに入ったりするのは、(3)の所属愛の欠乏からだと思います。

その後の(4)(5) はどうでしょうか？ このレベルのお金の使い方は、少し意識しないと無理なレベルです。退職後、新たに大学院大学で勉強をし直すとか、自分の持っている知識と技術を使って、手弁当でボランティアをするとか。

釣りの好きな友人がいます。教えてくれと言うと、「友だちが増える」と喜んで連れて行ってくれます。道具も貸してくれます。釣りには針や糸などの消耗品が必ず必要ですし、なんだかんだとこまごまとお金が掛かりますが、「どうせオレが使うのと一緒にだし」と細かいお金の事は言いません。誰に対してもそんな感じ。常に仲間が増えるという感覚なのだと思います。だからこちらも「先生・先生」と呼んで教えを乞うています。

家庭菜園でも、毎日世話をしていると、顔見知りが出来て、「今から植えるのは、〇△かなあ」「あれは、虫がつきやすいよ」「この肥料余ってるし、使ってみる?」。

いろんな情報交換をして、むしろ、プロよりも素人の分、はなからプライドもないし、失敗しても元々なんていう気持ちで、野菜が育つのを楽しんでおられます。

ほとんどのサークルなど、これと同じようなものではないでしょうか。レベル(3)から(4)(5)へステップアップ。自分の知識と経験を生かして、それを収入につなげるよりも、周りから認められるということに意味がある。こういう考え方方が出来る人はすばらしいと思います。

金トレ4の「大金だ!感覚」のところで、今まで自分が時間とお金を掛けてきたものを考えて貰いました。その中には、きっとこれからも続けていきたいモノもあると思います。それを続けるだけではなく、さらにステップアップして、「周りから認めて貰えるような力ネの使い方」で自分の人生の満足度をアップさせる。

こういうお金の使い方をすれば、それはそれで、その人の人生がより一層、豊かになる、と思います。なかなかこういうお金を使える人はいないものです。

▲金トレ14▼ 困った時のカネ頼み、老後と死後の法律問題

●子に援助するより「生命保険」が抜群に便利

500万円の銀行口座預金と、500万円の生命保険（終身保険）の違いが即答できますか？

「オレが死んだら、銀行口座に500万円あるから」と、「生命保険の受取人はお前だから」の違いです。

どちらも、遺族にとって現金になると言う点では共通です、しかし、生命保険の

最大の効用は、お金に名前が付けられるというところ。もし、相続人が一人ならほとんど違いはありません。でも子どもが二人いる、この時には、名前が付いたお金と付いてないお金の違いが出来てきます。

私が死んだら貯金はどうなる？　これを考へると一人暮らしの高齢者はみんな悩みます。そして逆にそれを目当てに（いくらあるかもわからないのに）近づいてくる親切な親戚もいたりするのが世の常であったりします。

「年取った時に、この保険、お前にやるから」。これ保険のとても便利な機能です。

しかも、受取人はいつでも変更できます。解約する事もできます。
こんな使い方も出来ます。嫁との仲が悪くなった時です。

「今は、受取人は長男だけど、今度、次男に変えようかなあ」

なんていうと、長男の嫁は真っ青です。銀行口座に入っているよりも、とっても生命保険はとても便利な機能を持っているのです。

●住んでいる不動産で資金を作る

年金は月 10 万円しかないし、貯金もないけど、自宅不動産の価値は1億円。こういう方も世の中にはいます。不動産は資産ですが、ちょっとお金が足りないから、このへんを切り取って売却するということができません。とくに、自宅不動産の場合はそれなります。

不動産を担保にお金を借りる！　中小事業者は昔も今もやっていますし、悪徳金融業者もそういうことに手を出している事があります。不動産担保ローンってやつです。

最近では、リバースモーゲージという金融商品も出てきています。知らない人も多いと思うので書いておきますが、家を買う時に、普通のサラリーマンはローンで買います。抵当権が外れて正真正銘自分の自由になるのはローンが終わった後ですが、これとは逆のことをするのがリバースモーゲージです。つまり、先に、現金を手に入れ、

死後にその不動産で精算するという家の売却法のひとつ。原則、生きている間は返済義務がありません（もちろん返済しても良いのですが）。ここが普通の不動産担保ローンとは違うところです。

これまで、自宅を売却して、そのお金で次の住まいを探す、あるいは、同時に探す、というのが一般的でした。しかし、介護施設の入居金が足りないとか、生活が苦しいとか、かつ、将来、今の不動産は不要だというときに使える金融商品です。地価が下落している間はなかなか手が出せなかった銀行が、地価下げ止まりの影響で次々と参入してきています。

まだまだ、地価下落の影響の少ない一等地、あるいは、相当の資産価値のある不動産に限っているところが多いのが現状ですが、今後、銀行がリスクを取らない範囲で、すなわち、充分な担保額＝固定資産税評価額の半分程度くらいまでなどの条件で融資するという銀行が増えるでしょう。少子高齢化の中、住宅ローン競争から、老後ローン競争になるかもしれません。

対象不動産があって、土地よりも現金の方が使い出があると考えるなら検討する価値があります。注意点は、死後の精算を基本としているので、相続人の承諾が必須です、承諾がなければあとで揉めることになります。本当に自宅不動産が不要なのかどうかを確認してください。実際、金融機関の方でも、相続人すべての承諾がないと受け付けないという所が多くなっています。

●惚けた後では遅すぎる、「任意後見と遺言書」

病気→入院→死亡、がすぐに来るとは限りません。在宅介護・認知症、この期間が長いかもしれません。生きている間の「財産管理」なら「任意後見人制度」を使う人も多いと思います。（後見人制度は家庭裁判所で認定の手続きをします）。

任意後見は、誰でもなれるのですが詳しいのはやはり専門の司法書士・行政書士・弁護士の範疇です。

死後の問題は、例え、「葬式はこんな風に。財産処分はこんな風に」と決めておく「死後事務契約」を取ったとしても、法律上、相続が絶対に絡みます。本人が亡くなっているからです。

法定相続人がいない場合なら別ですが、甥・姪などの親戚には迷惑をかけたくない！と思っても、法律上、相続人として引き継がれるわけですから、その相続人の意向無

しには事が進みません。

あと、お墓というか、遺骨をどうするか？ これも親戚に迷惑をかけたくない！ という気持ちがあるなら、お寺にあらかじめ任せるよう伝えておくのも一つの方法。

ただ自分は死んでいます。つまり一般的の契約としては追加事項があったとしてもどうしようもありません。だから「遺言書と推定相続人の確認」「死後事務の委任契約」「公正証書」などがキーワード。

信頼できる専門家は先ほど挙げたとおりですが、できれば自分より若くて健康そうな人がいいと思います。自分より先にいなくなったら元も子もいませんから。

●カッコイイ人は死んだ後でもカッコイイ

見本になるカッコイイ人が近くにいますか？

実物ではいなくとも、例えば、今までに見た映画の中や、読んだ小説の中の主人公に、あこがれるカッコイイ人がいれば、まず大丈夫。

映画を見て、「楽しかった・良かった」と思う。同じように小説を読んで「面白かった・金を捨てたな」、いろんな作品があります。でも、こういう疑似体験すらできない人も結構います。「映画なんか見ないし。小説なんか読まないし」、意外と多い。

レベル1 面白かったとかの、印象を持つ

レベル2 その作品が、他と比べて良いとわかる

レベル3 この作品と出会えて良かった、とまで思える

「この人と出会えて、良かった」、夫婦や家族や親戚とは違う、赤の他人でこういうことを感じてくれる人が見つけられたら、それはもう凄いことなのです。カッコイイ人ってのは、そういう人です。

そのためには、自分の許容範囲を広げる必要があります。知識も心も誠実さも。単に知識だけではない事に注意してください。もう一度質問します。

「この作品と出会えて良かった、自分の人生が人より得した」と思える作品、いくつ言えますか？

小説でもいいし、美術関係でもいいし、演劇・舞台でもいいです。そういう作品と出会うこと、その作品の価値が分かること。

これは、人間にしか出来ない能力で、しかも、このような事には無頓着な人も結構いるのです。

こんな大げさに書いている私でも、興味の無い分野、例えば、骨董とか日本画とか、全然分かりません、というより分からぬ方が多い。けれども、他人にウンチク一時間語れる分野も持っています。そんな友人もいます。

こういう世界を持っている人が豊かなのだろうなと思っています。

65歳からが老後としても、その後10年以上、ひょっとすると30年間。この間に、どれだけ自分の世界を積み上げられるか。こういう事を実践している人はカッコイイです。元気だとか体が動かないとか関係ありません。こんな人が亡くなると周りから「あーもったいない、生きていればあの人なら、もっといろんなことをしていただろうなあ」と思って貰えます。

親が亡くなったときに、「5000万円遺してくれたから立派だった」とか、「100万円しかないから立派じゃない」などと思う人はいません。それよりも、どんな生き方をしたか、どんな死に方をしたか。これで【カッコイイ】が決まります。

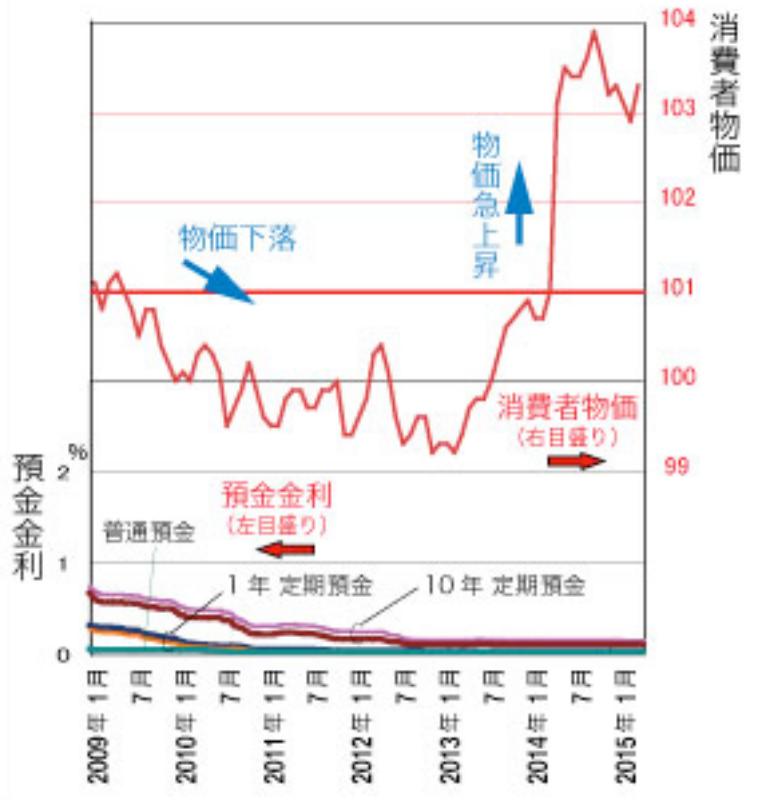
亡くなった後に、周りから惜しまれることがカッコイイ。これが私の目標です。皆さんも自分のカッコイイを目指してください。

▲金トレ15▼ 「巣ごもりアリ」は楽しいキリギリスが羨ましい
正しい資産管理は、「出口戦略」で完結させる

●投資が必要な人・危険な人。投資すべきか悩んだ時の判断方法

利息は、6年前の10年定期であっても1%もありませんね。最近はもう限りなくゼロに近いです。こんなときでも、物価が下がっていたら、つまりデフレだったら、預金の価値は上がります。1年後に買った方が、おつりが来ます。

物価と預金金利

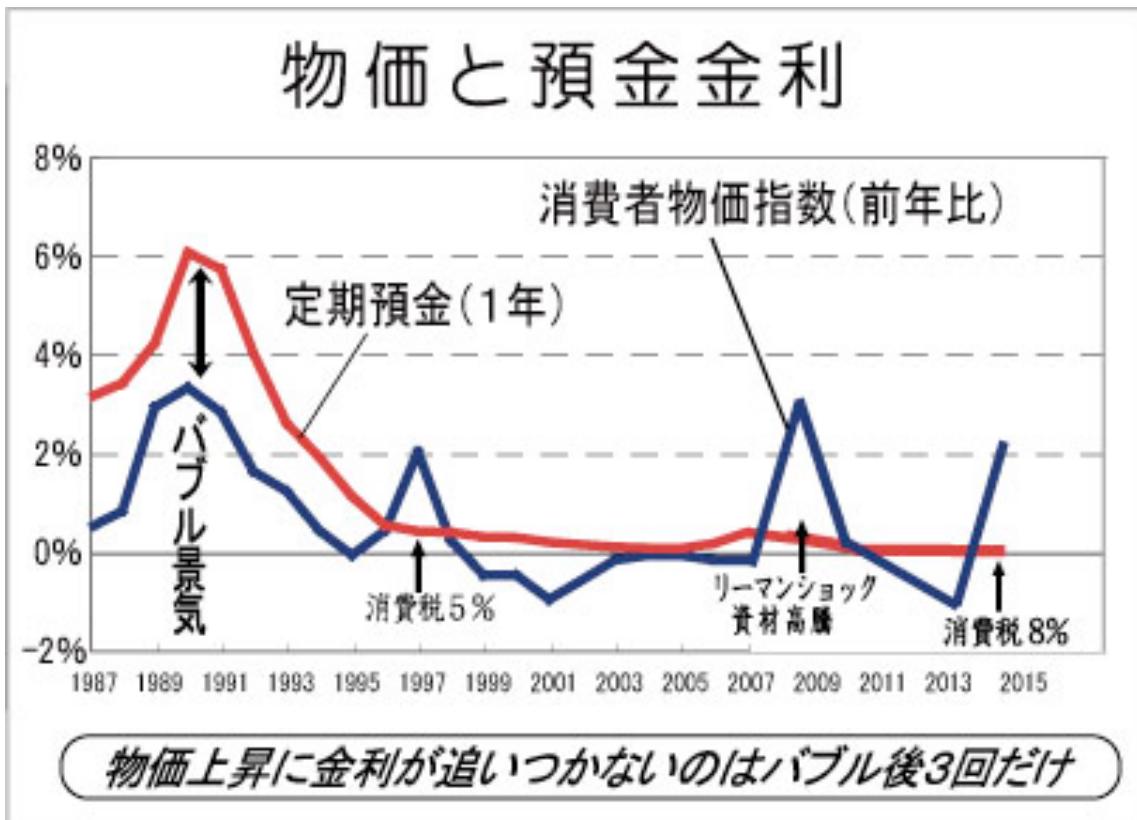


でも、消費増税があって急上昇。こうなると、
100万円の定期預金は、百円玉が2つくらいの利息がつきますが、
100万円の商品は、104万円になっています。

預金にしておくと、目減りする時代！グラフを見ると大体4～5%くらい。
1000万円の貯金が50万円減っているってことです、大変な事態です、この預金の
目減りをどうするか、つまり、

- (1) 元本割れ覚悟で投資信託なんかを買ってリスク運用するのか、
それとも
- (2) 元本保証じゃなきゃヤダと目減りする事を覚悟するか、
のどちらかです。どっちもヤダ、安全に殖やしたい、などと言う【美味しい話】はありません！

こんな時は、「絶対儲かる！」「目減りするし、利息付かないでしょ、だから投資しましょう」という詐欺が増えます。気をつけましょう。



実は、預金が目減りする減少は、バブルの後では三回しかありません。バブルの前でもオイルショックの時くらいしかありません、ずっと長い間、定期預金にしておいた方が良かったのです。しかし、消費税はさらに増税が予定されていますし、その後もどうなるかわかりません。預金目減り時代の到来なのです。

●分散投資というFPは、ウソツキだ！

私もFPです。そして「分散させましょう」と言っています。ははは（笑）。確かにリスクを避けるには分散です、あれもこれも、投資信託では中身が最初から分散投資になっているものもあります。

分散というのは、あれもこれもじゃありません。一番有効なのは「時間分散」です。それも年オーダーの分散です。中長期で投資を考える人は、いくつか銘柄はポイント

絞って、その安値を狙って買っていきます。これが大事で、時間を見方につけるという事なのです。投資系の言葉では、「バイ・アンド・ホールド（Buy and Hold）」。だから私が言う「分散させましょう」は、時間分散がメインです。

バブルが弾けてもう30年近くになります、ということは私が初めて日経平均連動型ファンドを買って30年くらいたったということですが、これをもし「損したから忘れておく」などと言っていれば今でも元本割れです。日経平均の最高値38,915円、平成元年のことです。

いろいろ分散していたとしても、それらみんなが元本割れしていれば、損していることに変わりません。2008年のリーマンショックの時がそうでした。

分散しているから安定した収益が上がる、これ嘘です。分散しているとブレが減るだけです。

投資で儲けようと思ったら、安い時に仕込んでおいて高くなったりときに売る、ということをしなければいけません。しかし、当然ながら暴落の危険もあります。

時間を味方につけると言っても、リーマンショックからアベノミクスで日経平均が上がるまで約5～7年掛かりましたが、逆にこの5年間に投資していた人は、資産を2倍にしました。

今、世界中とくに先進国は成長率がほとんどありません。そのような中で昔のように安全にお金を増やせるモノはありません。逆に、紛争やテロ、中央銀行の政策変更、リスク要因は増えています。

私は若い人には投資を積極的に勧めています。先の物価上昇が預本金利を上回っているからです。ただ、金融危機があれば、回復するのに時間が掛かります。下がる事を怖がるのではなく、もし下がったとしても戻ってくるまでどれくらい時間が掛かるだろうか、この時間が取れるだろうか。こちらの観点で考えて下さい。当然、老後では時間が運用できる時間が少なくなりますから、そんな視点が必要です。

●コストだけの資産は不良債権、利益を生み出すのが本当の資産

バブル期に土地に手を出して火傷した人や企業が多くあります。どこの企業とは書きませんが、こんな大きな企業でも破綻すると驚いた大型倒産の多くは土地関係の無理な投資。個人でも、借金してマンション建てたけど空室が増えてローン滞納。結局、自己破産、などという人が結構ありました。

破綻までいかなくとも、昔、お金が出来ると土地を買ってました、という人は結構私のお客様の中でもいらっしゃいます。皆さんの周りでも、高い時に家買っちゃったなあ、という人がいませんか。

資産には、現金もあれば、株式や国債などの有価証券もあります。不動産もあります。親から引き継いだ田舎の実家や山林という資産の時もあります。昔だと、宝石や時計や高級毛皮や超高級ブランド品も資産と言えば資産です。

資産には次の3つがあります。

- ・売れば現金になる・・・・元本割れしているかどうかは別
- ・利益を生み出す・・・・値が上がっている、収益がある
- ・コストだけがかかる・・・・維持費や保険・税金など

このうち、最後のコストだけの資産。これは本当の資産じゃありません。例えば、先祖伝来の土地で親戚の手前売ることは出来ないとか。猪や鹿・猿などの野獣対策が必要な山林とか、こんなコストのかかる不動産は、資産ではありません。

不動産ばかりじゃありません。もうあまり乗らないで税金と保険だけがやってくる自動車とか、中には、「プレジャーボート持っています、維持費が大変です」なんていう人もいます。

保有し続けるにはどれくらいコストが掛かるのか、本当に売れないのか、売るとどうなるのか、この辺りはしっかり吟味しておかないと、無駄な支出ばかりでお金を有意義に使えない、【可能性】が減る、という事になってしまいます。

●富とは何？ 本当の富は「使う時」に価値が出る

富とは何ですか？ と聞かれると、「お金」と即答する人が相当いると思います。しかし、間違います。この間違い、わかりますか？ この本は、これを書きたいがために書いていると言っても過言ではありません。

お金は、使った時に「富」に変わります。富の【可能性】をつくるのがお金なのです。お金そのものは富ではありません。

だって貯めただけなら、生活には何にもかわりがないですから。

わかりやすく説明します。

例えば、60歳で、貯金+退職金で

- ・3000万円あったAさんと、
- ・2000万円のBさん、

どちらがお金持ちですか？ もちろんAさんですよね。そして、さらに20年後、AさんもBさんともに80歳。

- ・Aさんは20年間で500万円使いました。（Aさんの残り2500万円）
- ・Bさんは1000万円使いました。（Bさんの残り1000万円）

やはり、Aさんがお金持ちです、でも、購買力の実績はBさんの方が上！ どっちが豊かな人生ですか？ このあとAさんがどうされるか分かりませんが、この80歳時点ではBさんです！

本当の富とはお金や資産ではなく、「使う瞬間から」価値がでているということが分かっていただけますか？

これは他の事にも展開できます。

- ・ドライブが趣味で、ガソリン値上げが嫌だからと、20年分くらいのガソリンを家に持っていてもダメ（←こんなことすると消防法で叱られます）
- ・電気が無いと困るからと、1ヶ月分の巨大バッテリーや発電機を用意する人はいない。
- ・腹が減ったら困るからと、部屋一杯にコメを備蓄する人もいない。

—— 部屋一杯に、お金があってもダメなのですっ！

お金があると確かに安心です。でもそれを使ってこそ本当の富。覚えておいてください。せめて、富とは何？と聞かれて「お金」なんて答えないでください。

上のAさんとBさん、どっちが笑っている老後でしょう。

お金がお金である間は豊かではありません、使う時・使った後に価値が出るのです。だからどう上手く使うかで、笑う老後がやってくるのです。

● 「笑う老後」は「資産の出口戦略」で完結する

第3章の冒頭に書きましたが、「昔はすぐに使わない1000万円を10年定期預金にすれば2倍になった」「寝たきりになっても、タダで病院に住めた」、これが昔の親の世代が退職金を目減りさせずに生活できた大きな要因です。

でも、これまで繰り返し書いていますが、多額の資産をもっている人とそうでない人の生活レベルが、資産の有無・大小に関わらず、年金額で決まっている。もう、利息が付かない時代になって長いですから、退職金温存が無理だと思っている人は多いのですが、一方で無意識に、親の裕福な年金生活を思い浮かべている人も多いのも事実です。

どうやって、うまく自分の資産を取り崩すか？これで、笑う老後がやってきます。でもその後、つまり、自分の死後、この最後で完結させなければなりません。これにはいくつか方法があります。

「生命保険という名前の付くお金」で完結させる人もいれば、「死後は自宅を売却してお金にしてね」で完結させる人もいます。昔からされている「遺言書」という形で完結させる人もいます。

良くある、と言つていいかどうかは微妙ですが、「賃貸不動産を遺贈する」という方がいます。これ、相続人が賃貸経営の出来る人なら良いのですが、経営にセンスがなく、例えば、

「もう1年借り手がいません、家賃を下げましょう」

と言ってくる不動産屋さんとの交渉も、そして何より相場・賃貸相場の感覚がなければ、経営はできません。そうこうするうちに毎年不動産税はやってきますし、もし地価が下がれば、売るに売れない土地になるかもしれません。何のための賃貸不動産の遺贈だったのか、ということになります。

自宅不動産でも同じです。自分の死後、誰がどのように使うのか、これを考えてこそ始めてその資産が本当の資産です。利用できなければコストだけの不良債権です。

不動産は賃料収入が目当てですが、同様なものに、配当狙いの株式や投資信託というものもあります。これも収益が上がっていれば結構です。でもリーマンショックのように半値になってしまえば、定期預金の方が良かったなあに変わります。

ここで再び活用できるのが、金トレ10の「自分決算書」です。どんな資産があって、もし現金化するのならどうするか。残念ながら、最近では、「相続した田舎の土地が売れません」という話が増えました。まだ、そこそこの住宅地なら格安にさえすれば、なんとか古い建物の取り壊し費用くらい出せる事もありますが、それさえまらない土地。山地や山の裾野の農地、雑種地など。「年1万円くらいでしょうけど、固定資産税払っていくしかないでしょうね。マメに買い手がいないか探すしかありませんが、それも難しいんですよね」と答える場面が増えました。

自分の資産をどう使うのか、それも、自分の死後もどうするのか？ この出口戦略で、笑う老後が完結します。

「節約、節約と思うのはイヤだけど、派手に使うのも好きじゃない」

巣ごもりアリを続けていると、しまいには、やっぱりキリギリスが良かったな、になります。つい先ほど、金トレ14で書きましたが、

—— 親が亡くなったときに、「5000万円遺してくれたから立派だった」とか、「100万円しかないから立派じゃない」などと思う人はいません。
それよりも、どんな生き方をしたか、どんな死に方をしたか。
これでカッコイイが決まります——

つまり、生き様！　これを伝えるのが相続だと思っています。お金や資産を受け継がせるのだけが相続ではありません。国税庁は、相続税に関する部分にしか興味を持ちませんが、お金に換算できないもっと大切な財産が人それぞれに、いろいろあります。

伝統のある家系の人は、その伝統を伝えるのが生き様でしょうし、「コツコツ真面目に」伝えたい人もいるでしょう。「人には優しく」伝えたい人もいるでしょう。そういういた伝えたいたいことを伝えるために、是非とも「自分のお金」を使って下さい。

自分の思う【生き様】を伝えること、その結果が「相続財産」として受け継がれるわけです。お金に変わる財産を残すのではなく、生き様を残す。これで「笑う老後」が完結するのです。

おわりに

ここまでお読みくださり有り難うございます。

多くの方が、老後不安の中で過ごしておられます。

団塊世代の大量退職が話題になって以降、大部分の方の老後生活、すなわち、ごく普通のサラリーマンがごく普通に幸せに生きていくこと、そして、それを上手く・より良く実現する方法はどうすればよいかを念頭に、この文章を記しました。

ライフプラン作りはお客様との共同作業です。その共同作業の中で、私が発見し、再認識したことの集大成です。と同時にそれらの発見は、さらに次のお客さんのライフプランに活かしていく事ができます。

幸いにも、多くのお客様が「安心しました」「これでもっと楽しく出来そうです」「不安が無くなると、もっと上を考えるものですね」などと言って頂けると私も張り合いがでてきて、「今度はもっと頑張ってもっと良いライフプランを作ろう」と考えます。

それを突き詰めていくと、やはり「ほんの少しの使い方」で人生は変わるんだ、と思うようになりました。そして逆に、視点のズれた所・変な所で、自ら不幸になっているか、あるいは、幸福を感じていない方が、世の中には、多いのではないかと思うようになりました。

もしここに書いたこの文章が、アナタの人生に少しでも、ほんのわずかでも影響を与え、より良いアナタの人生になって頂けたら、それは私の本望です。私の願いあります。

是非とも一度の人生、少しでも良い人生をお送り下さいませ。

ライブリフォッド・プランニング
竹本隆之

2015年 8月